

# きもつき 119

KIMOTSUKI FIRE DEPARTMENT

2023. 3 VOL. 103



本組合では、管内の電光掲示板を所有する事業所から協力をいただき、火災予防広報を行っています。住民の皆さんの生活のなかに防災や火の用心が身近に感じてもらえるように様々な消防行政の情報を発信していきます。

また、火災予防広報に協力をいただける事業所については消防本部予防課までご連絡ください。

火の用心



令和4年の出動状況			
火災出動	救急出動	救助出動	警戒出動
77件	7363件	53件	681件

令和3年の出動状況			
火災出動	救急出動	救助出動	警戒出動
84件	6983件	62件	687件

編集 大隅肝属地区消防組合  
TEL 0994-52-0119  
・当番病院問合せ  
発行 TEL 0994-43-0119  
HP は右のQRコードから





## 「サイレンを鳴らさないで来てほしい」

119番通報時に、「サイレンを鳴らさないで来てほしい」と言われることがあります。

救急車などの緊急自動車は、道路交通法で緊急走行する際は、サイレンを鳴らし、赤色の警告灯を点灯させることが定められています。

救急車の存在を周囲に知らせ、事故なく現場や病院に向かうためにも必要不可欠であることをご理解ください。

## 本当に救急車が必要ですか？



近年、救急件数は増加傾向にあるなか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大も重なり令和4年12月の救急出動件数は779件と月計で組合史上最多の件数となり、救急現場は一時、ひっ迫しました。

令和4年中に救急搬送した人数は6,618人で、そのうち、救急隊と医療機関どちらも軽症と判断した人数が1,801人あり約27%に及びました。

救急車の台数にも限りがあります。本当に必要な人に1秒でも早く利用してもらうためにも救急車の適正利用をお願いします。

また、救急車を呼ぶべきかどうか迷ったときは、全国版救急受診アプリ「Q助」をご利用ください。

android用



iPhone用



救急車を呼ぶ前に考えよう



## 聴覚・言語機能に障害がある方は登録をお願いします

本組合では、聴覚・言語機能に障害がある方にも安心して消防サービスを利用していただけるようにNET119を導入しています。これは、スマートフォンなどから通報用Webサイトを介してテキストチャットで通報のやりとりを行う仕組みとなっています。ご利用には事前登録が必要になりますのでご注意ください。

QRコードから空メールを送信し、ご登録にお進みください。

問合せ先

大隅肝属地区消防組合 指令課

電話：0994-52-0119

FAX：0994-40-3878



登録メール

YouTube



詳しくはコチラ



## 大隅肝属地区消防組合 会計年度任用職員募集

募集人数 4人  
職 種 事務補助（パソコンの簡易な入力作業等）  
勤 務 地 消防本部、中央消防署、東部消防署  
勤務時間 月16日、午前9時～午後3時  
報 酬 等 日額4400円（社保、雇保無）（期末手当有）  
申 込 2月6日（月）から2月24日（金）必着  
履歴書を消防本部総務課に持参又は郵送

詳しくはQRコード  
をチェック⇒



## 防火ポスター・防火書道展 消防音楽隊ミニコンサート

日時 令和5年3月5日（日）11:00～  
場所 農畜産物直売所 どっ菜市场（鹿屋市笠之原町）

本組合では、春の全国火災予防運動の一環として、管内の小中学生を対象に、防火ポスター・防火書道のコンクールを開催しています。当日は、表彰式及び消防音楽隊の演奏も行いますので、是非ご来場ください。



※入賞作品展示場所、期間  
農畜産物直売所 どっ菜市场内  
令和5年2月22日（水）～3月7日（火）

## 緊急消防援助隊

緊急消防援助隊をご存知ですか？

普段は皆さんの市町村を守る消防士。しかし、地震や豪雨などの大規模災害が発生した場合には、被災地の消防機関では対処できないことがあります。

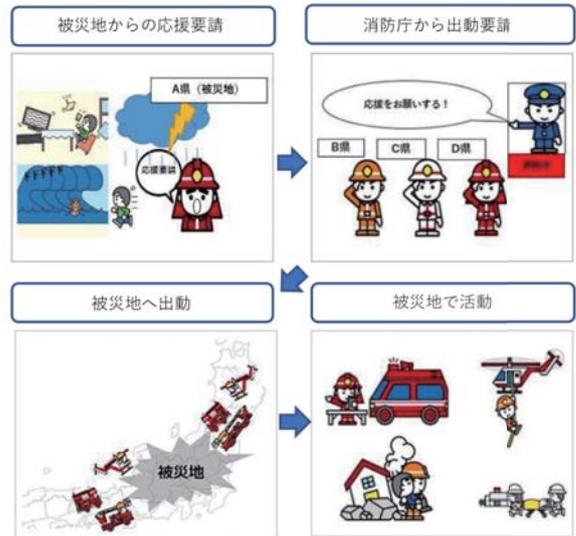
そんなとき、被災地からの要請を受けて全国の消防本部が応援に駆けつけます。

この応援部隊が「緊急消防援助隊」です。



1995年に発生した阪神・淡路大震災を教訓に創設され、27年間で43回、災害現場に出動し、活動しています。

緊急消防援助隊は、消防庁長官からの出動の指示などを受けて被災地に迅速に出動します。



援助隊が迅速かつ的確に活動できるよう、都道府県及び市町村の協力を得て、毎年地方ブロックごとに各県の部隊が集結して合同訓練を実施しています。また、5年に1回全国合同訓練も行っています。

令和4年度の訓練は、九州ブロックが沖縄県、全国が静岡県で実施され、本組合から8名の隊員が参加しました。南海トラフ地震を想定した訓練や、自衛隊、警察、災害派遣医療チーム（DMAT）等の各関係機関と連携強化を図る部隊運用訓練を実施し、技術の向上を図りました。



## 救助工作車配備

令和4年9月、林野工作車を更新し、東部消防署に救助工作車を配備しました。

この救助工作車は、人命救助を必要とする火災や交通事故現場等に出動します。

頻発する自然災害や発生が危惧されている巨大地震に備えて、救命ボート、大型電動油圧救助器具、山岳救助器具、電動カッター等が積載され、照明や事故車両等を牽引するためのウインチも装備されています。

隊員は、この救助工作車と資機材の能力を災害現場で最大限発揮し、1人でも多くの命を救えるよう日々の訓練に励んでいます。



## 移動防災教室

錦江町山之口自治会と南部消防署が合同火災防ぎょ訓練及び移動防災教室を実施しました。

ここは、海沿いで、住宅が密集しており、狭い道路が多くある地域です。万一火災が発生した場合、被害が拡大する恐れがあるため、訓練を行い、「自分の身は自分で、自分たちの地域は自分たちで」といった自助、共助による防火意識の高揚を図りました。

是非、訓練を希望される自治会はお近くの消防署までご連絡ください。



移動防災教室の様子

合同訓練の様子



SPRING FIRE PREVENTION CAMPAIGN

# 春季火災予防運動

令和5年3月1日(水)～3月7日(火)

大切なものを一瞬で奪い去ってしまう火災  
防火について考え「火の元確認」に  
しっかりと取り組んでいきましょう。

※火災予防運動期間中は、各地で消防訓練や防火イベントが行われます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 防災を「忘災」にしないために

平成23年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の大地震が宮城県牡鹿半島の東南東沖130キロメートルで発生しました。東北を中心に1万5千人を超える尊い命が失われ、40万人を超える避難者が発生した東日本大震災。

震災直後、私たちの防災意識は高まりましたが、月日が経ち、いつの間にか「忘災」になっていませんか。

災害は、いつ発生するかわかりません。改めて家庭の防災対策を見直しましょう。

普段からどう行動するか決めておきましょう

火元の確認  
初期消火

火を使っているときは、揺れがおさまってから、慌てずに火の始末をする。出火しているときは落ち着いて消火する。

家族構成に応じた避難

家族に子ども、高齢者、障がい者などの避難に時間のかかる人がいる場合は、早めに避難を開始する。

気象庁  
防災情報



出口を確保する

揺れがおさまったのを確認してから、ドアや窓を開けて、避難ができるように確保する。

避難の前に安全確認

避難が必要になったときは、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めてから避難する。

※今後40年以内の南海トラフ地震の発生確率は90%となっています。